

## 平成 25 年度 第 1 回 精華町男女共同参画審議会 議事摘録

### ■日時・場所

- ・平成 25 年 11 月 5 日（火） 10:00～11:45
- ・精華町役場 2 階 202 会議室

### ■内容

#### 1. 開会

#### 2. 会議の公開について

事務局 本審議会は原則公開となっている。会議開催の事前告知、会議の傍聴が可能、会議結果について公開することになっていきますので了承いただきたい。（一同了承）

#### 3. 委員委嘱状の交付

#### 4. 町長あいさつ

今年 3 月 29 日に「精華町男女共同参画推進条例」が制定されたことを受け、審議会を設置した。審議会の役割は、男女共同参画の推進と男女共同参画の推進に影響を及ぼすと認められる事項に関して、住民の方々から寄せられる苦情や意見などについて、その課題解決に向けた調査、ご審議を頂くことである。そして、平成 26 年度で男女共同参画計画の期間が最終年度を迎えることから「第 2 次精華町男女共同参画計画」の策定についてもご意見を頂くことになっている。

町の男女共同参画推進は審議会が設立されたことにより、新たなスタートだと認識している。

現在の男女共同参画推進は、「誰もが生きやすい社会づくり」を目指すところへと変化してきている。女性の活躍を成長戦略の中核に位置づけるとともに、男性にとっての男女共同参画についての啓発や取組も始められている。

「一人ひとりが暮らしやすいまち」という本町の男女共同参画計画の基本目標は「誰もが生きやすい社会」に通じるものであり、そういった社会の実現に向け、多様なご意見を賜り、本町の男女共同参画社会の推進へと進めていただきたい。

#### 5. 会長・副会長の選出、委員紹介

前西委員 学識経験者の方の会長、副会長への推薦あり。会長へ片上委員。副会長へ吉井委員の推薦があった。

田中委員、石崎委員からも賛同の意見あり。（一同了承）

片上会長 委員皆さんが男女共同参画に寄与された方ばかり。会長というよりは進行係と考えていただきたい。与えられた課題は大きなもので、みなさんのご協力を得て2年間努めたいと思う。

吉井副会長 大学で家政学の研究をしている。精華町に引っ越してきて4、5年経ち、前回男女共同参画推進委員会で委員をし、勉強になった。今回は副進行係として、頑張りたい。

以下、各委員自己紹介。事務局自己紹介。

## 6. 議事

(1) 精華町における男女共同参画の現状と今後の取り組みについて(資料2～5)  
事務局 資料説明

石崎委員 11月12日の街頭啓発の方法について、どのような形で行うのか。

事務局 手元にお配りしているビニールバックをせいかガーデンシティとアピタ精華台店にて配布する。

前西委員 1月21日の研修について、終了予定時間は？

事務局 庁内部課長で構成する、精華町男女共同参画推進会議委員との合同の研修であり、2時間を予定している。正午に終了予定。

田中委員 11月12日の街頭啓発への審議委員からの協力について確認をしたら。  
(事務局で当日の割り振りを確認。)

吉井副会長 母の会でも配布に協力する。

事務局 1月30日の講座は、商工会館2階研修室で実施。1月21日は京都府男女共同参画監が講師。京都府で、育休をとられた方。

安井委員 近隣市町村では、男女共同参画センターができてきている。精華町でも拠点づくりをお願いしたい。

図書館の一室を使ったらどうか。今回行うDVの啓発も重要だが、もっと幅広い活動の啓発も必要。安倍政権では、女性の活躍促進を謳っている。就業や、再就職などの分野なら、話を聞きたい人が来るのでは。

事務局 精華町の人口規模の町では、拠点を立ててということは難しい部分がある。

図書館については図書館として整備されたものであり、その中で男女共同参画の拠点を設けるということは困難がある。もっと人の集まる場所を借りて、という方法も考えられるが、費用面や人材面などハードルが種々ある。拠点づくりについては、検討必要事項であるとの認識はしている。

現在においては、庁舎内においても情報の張り出しなどによる啓発を行っているが、有効な啓発場所の検討は可能である。男女共同参画審議会という形で進んでゆく中で、意識付けは少しずつ浸透してゆくと考える。じっくりと検討をしてきたい。

安井委員 結論ありきではだめだと思う。拠点が出来れば我々も一生懸命になるので、2年の任期の間に努力する。場所を提供してもらえば後は自分たちの責任であるとも思っている。図書館の下にも会議室がある。

吉井副会長 図書館は男女共同参画に関する図書、書籍を集める等、担当の方で出来ることかと思う。月間の取り組みなど、人権啓発課と共同でできるのではないか。継続的に場所をとると、人件費が生じる。ただ安井委員が言われるように入口が見えにくいとか、窓口がわかりづらいということがある。そこまで行かないと資料が見られないということがある。今後、保育所や、子育て支援課などに母親などは仕事の相談などを行っている可能性もある。そこから最終的には男女共同参画の係に相談に行けるように入口をわかりやすくして、相談や、情報取得できるような流れの整備をするというのはどうか。ハード面も大切だが、ソフト面からのアプローチをしていただくように。すぐ明日からは無理でも、少しずつ変えて取り組んでいただければと。

片上会長 一朝一夕にはならないあたりでもあり、そういう考えもあるということ。

町長 良い意見を頂いています。否定する意見ではありません。図書館機能としては、人が多く集まるということだけが良いのかという面もある。今現在の精華町の図書機能としては、非常に高い評価を頂く機能を発揮している。近隣からの利用もある。男女共同参画の課題については、町の中で非常に幅広く課題があり、今子育ての方でも幅広い取り組みをしており、様々な立場の方がこの取り組みを前進させようと進めています。こういった課題は当然一つの課でとどまっているのではなく、町を挙げて対応することが求められている。健康推進も副町長をトップに今まさに取り組みをしているところ。この課題を軽んじているのではなく、行政では幅広く多くの方の共感を得るよう取り組み進めて行く。

片上会長 その他、事業計画等でも質問はないか。

吉井副会長 町男性職員の育児休業取得率が0%であるが、全国的に低い、その中でも取得率を引きあげているのが、公務員の育児休業取得だ。精華町が0というのが残念である。町に住む職員が、育児休業を取得することで、育児休業の推進、啓発がされる。何が障壁になっているか、女性管理職の割合が関係するかもしれない。育休をとるとキャリアが分断されると考えるのか、専業主婦の方と結婚している方が多いのか、職場で取りにくいということが原因なのか、結婚していない男性が増えているのか、若い職員が多いので積極的に進めてほしい。

町長 誠に残念ではずかしい思である。私町長の仕事を預かって10年余り。振り返ると、市町村合併に声がかからない、肩たたきもない、それは府内でワースト3という財政が非常に厳しい状況であった。私の初めての仕事は、デイサービスセンター、かしのき苑あれが3億2千万。(デイサービス事業)が国費の1億円が付く予定が、補助金は0という宣告を受け、合併にも声がかかる状況ではなかった。まさに315億円の実質債務を抱えながらのスタートであった。平成16年度予算が初めて私が着手する予算で、平成13年度が税収の頂点であり、55億1400万あったが、16年度予算編成時は9億円減という状況であった。私は、公約の先送りなどを職員に進言され、その中でも公約は、住民に約束をして選挙でご指示をいただいた、これを先送りすることはできないと、私の思いで改革を進めたいので協力して欲しいと、だから、管理職が「私たちの管理職手当の一部をまず使ってください」と、こういう進言を頂いた。この間、町人口は4300人の増。平成13年度からの決算からすれば、8000人を上回る人口増がありながら、現実職員数は3名減。増員したのは、保健師、これは住民の命を守る。そして消防職員は10名増員した。実質的には、事務職員が大変苦勞をしてくれている。できる仕事については、アルバイト、嘱託職員に助けをいただき、努力をしているが、限られた行政の中で法律、規則、を遵守しながら公平公正にどう執行するかということになると、アルバイト、嘱託職員には申し訳ないが、そういった責任の一端を負っていただくことが出来ないと。職員には誠に重荷をかけてきている。私は議会ではいつも職員に対する批判の言葉が出ましても、十分説明をする。職員も町長がここまで職員の思いを代弁してくれているなら、頑張ろうということ頑張っている姿、まさにこの10年間に職員の給与は、1億7千万減です。職員減によるものもあるが。また、東畑の塩漬けの土地と言われていますが、これもバブルの時に公共用地として買った約1000㎡。これを保持するために、職員自らのボランティアで山に入り、住民の皆さんの協力も得て、平成19年2月から今まで約2000人を上回る

人たちのボランティアで維持管理もしている。全国的に見てもこういった例がない。これは事実である。非常に厳しい状況の中、36%の債務の解消をし、京都府知事からも精華町は「良くやった」とあるいは、京都府の事業部からも、精華町方式、住民と共に色んなことを解決してゆく町として高い評価を頂いている。まさに職員の姿勢、行政の姿勢としては十分ご配慮いただく中で、皆さんの思いも大事にし、今公務員として与えられている職責がどういうことなのかを考え、育児休業取得という課題についても、取得できるような町を目指してゆくことが当然として求められると思っている。これからも引き続き皆様のご協力を頂きたいと思っている。委員の皆さまのご意見も大変大事なご発言であるので、これからもご協議いただく中で努力してゆきたいと思っている。

住民部長 私自身、人事の担当をしていたことがある。育児休業取得率の低さについては、啓発が足りないと感じている。育児休業というと、子どもを保育所に預けられるようになるまで休まなければならない、夫婦交代でというのなかなか難しい課題で、どういう形で育児休業を取るのかということ、事前に夫婦間で、計画性を立てていないといけない。職員も1年、2年と休まなければならないのではないかという思いがある。育児休業の制度についても変化している、先ほど図書館の例を挙げていただいたが、人権啓発課だけではなく、行政として色んな課でもって男女共同参画を進めていくことが必要であるので、役場内部でも意識変容を行えるような、取り組みを進めていきたいのでよろしくお願いたします。

田中委員 今、町長と部長の話を聞いて、私と石崎さんは、この男女共同参画の推進を町長と共に歩んできたような形。その間、色々なお願いをした。センター設置の話もした。しかし財政のことを考えると無理は言えない。空いている場所は沢山あるが、それ専用に使おうと、人材、人件費含め、どれだけの予算がいるのか、ということで実行するには困難があると。行政はなかなか苦しんでいると思う。木津は婦人働く家があり、近隣も殆どセンターというものができてきているが、それを行政ができないからではなく、住民の力で何とかしていかなければならないというのが私の考えだ。先ほどの育児休業のことに関しても、住民も、理解を深める必要がある。行政の仕事って本当に大変であるので、徐々に一つずつ片付けながら、実施してゆくことが必要。

3月の「メディアリテラシー」についてのミニ通信の記事について、精華町でこれは、あまり浸透していないと思う。先に言葉の意味など啓発する必要がある。最近特にまた、女性をまた、(宣伝材料として)前へ出している。こういう部分を啓発することを考えていただきたい。

石崎委員 平成25年度だけでなく、平成26年度のミニ通信の計画を審議会で示して

ほしい。見通しを持った計画を示してほしい。

田中委員 審議委員として、掲載してほしい記事もあるので、通信編集に参加する機会を検討してほしい。

人権啓発課長 ミニ通信を編集してゆく作業の中で、意見を聞かせていただく。原稿を委員に執筆頂くなど、事務局で確認をしながら、掲載してゆく方法についても検討をする。

吉井副会長 多くの人の色々な思いが入ると良い記事になると思う。

安井委員 行政が率先して成果目標を決めてやってもらいたい。今まで数値目標については、だめだという話があった。できるだけ数値目標をいれてほしい。

育児休業について、クォーター制など役場内で対象職員を集めて、取りなさいと、本人から言いにくいのが、そのように前向きに動いていくと、女性が働ける。精華町は(保育所の)待機児童は0と聞いている。他の市町村は沢山あり、対策に懸命になっている。精華町はじっとしていないで、一步進まないといけない。次のステップに向かうことをやってもらいたい。女性がどれだけ働いているのか、ただ楽になっただけなのか。そういう調査もやって女性の働く機会も与えてゆくとかそういうこともやって欲しい。

田中委員 子育て支援課の方で学童の方は外で働く母の調査をしていると思う。

安井委員 男女共同参画の方にそういうデータを出してほしい。

田中委員 それをわれわれが自分でチェックしていかなければいけない。

安井委員 そういうデータがないから、精華町は0だということしか私は聞いていないし、次のステップはどこに行っているのかと。

町長 今ご指摘いただきましたが、すべてが遅れているという思いはありませんし、雇用を進める取り組みもしている。地域企業に直訴したが、研究だけでなく、働く場所を創出することが3世代を町に確保することになる。子や孫を側面から育てることが健康長寿につながるという。認知症の課題もあるけれども、各世代で暮らしをしてきたことが、今大きな課題になってきている。やはり足元を大事に、人、物、お金、情報を地域社会の中で分担をすることが非常に大事である。今土地がないくらい働く場所が出来つつある。これは女性の社会参画にもつながる。これからも引き続き努力したい。

前西委員 今、話を聞いていて、私の考えと少し違う所がる。あまり行政に頼り過ぎは好きではない。私は14年自治会長をさせていただいて、思うことは、子育ての場合だったら、親を育てないといけない。

商工会の立場から言わせていただくと就職先について考えた中で、進出企業と交渉していただいているということ。事実雇用が何人生まれるとか、新聞にも載っている。そういう部分を知れば知るほどいいところだと。行政のことを批判していた時もあったが、段々と周辺地域とは異なってきていると精華町で生まれ育った中で感じている。そういう努力をするには行政からの情報をだしてもらい、というよりは自分で足を運んで入り込んでいくということが大事だ。それによって町の中核というものの、予算の問題や人間の配置、というのを理解できたと思う。その隙間を縫って出来ることの提案をすることになると思う。41自治会長の連合会では、行政に対して要望を言うが、パイがあって実施されている。他の自治会長さんに言うのは、新旧格差のことについては、開発手法が違ってきているので、格差が生じて当たり前であると。自分の町の行政がどういった状態でやっているのかの情報は出して欲しいが、自分自身でも知る努力がいて思っている。この男女共同参画にしても、今まで歩んできた中で、今現在があるのだから、それを今後どう応援するかということ。ただ、行政の中では縦割りだけでなく横串も取り組んでほしいと思っている。それを精華町内で情報公開していただけたら良い。

片上会長 今日は大変忌憚のない有意義な意見を頂いている。いずれにしても先程からあるように、人、物、金、情報がどれだけうまく融合するかだ。期待ばかりではないというのもあるし、努力もあると思う。せっかく貴重な時間、有能な方がお集まりになっているので、次回にかけても意見等いただくということで、今日については、一旦これで討議の方は終わらせていただきたい。

## 7. その他

事務局 必要事項連絡

## 8. 閉会